

# 白神山地におけるイベント活動について

藤里森林センター ○石川キヨ子

工藤 敏

池端 覚

はじめに

近年、都市の住民等が自然と親しみ、森林にふれたいと言う要望が強まっている中で、白神山地においては「白神山地森林生態系地域」が平成5年12月に「世界遺産」に登録され、その知名度が高まるにつれて遺産地域やその周辺地域を訪れる人々が急増している状況にあります。

このような中で、現地において直接遺産地域を管理している藤里森林センターとしては、地元住民を始め国民の理解と協力を得ながら遺産地域を良好な状態で保全し次の世代に引き継ぐため、その保護・管理と入山者への指導を行うとともに、白神山地をフィールドとした森林教室、自然観察会等のイベントを通じて世界遺産への理解と森林・林業に対する普及・啓発に努めてきたところです。

今回、一般市民を対象に、平成7、8年度の2ヶ年にわたってアンケート調査を実施したのでその結果を報告します。

## 1 イベントの応募状況として

### (1) 募集方法

イベントの募集は秋田魁新報・北羽新報・藤里新聞の3紙と全国紙の秋田版へ記事の掲載を依頼し、申込みは往復ハガキで受け付け、抽選で参加者を決定しております。

なお、先着順であれば特定の者に偏る心配があることや希望者に参加の機会を公平に与えるためです。

### (2) 募集状況

募集状況は、330名の募集に対し524名の応募があり、平成7年8月の「親子自然会」を除いていずれも抽選となり、特に8年度は平均で2倍近い倍率となるなど、2年間で214名(41%)の方々が抽選漏れとなっております。「表-1参照」

表-1

募集及び応募状況

	平成7年度	平成8年度	計
イベント実施回数	4回	4回	8回
募集総数	160人	170人	330人
応募総数	199人	325人	524人
倍率	1.24	1.91	1.59

なお、家族 107組 270人と友人どうしが37組92人を併せて約7割を占め、特に夫婦での申込みが多く、今後もこの傾向が続くものと思われます。

図-1

(3) 応募者の居住地

応募者の居住地（図-1）については、秋田市内・秋田市周辺合わせて59%、能代市・山本郡内で26%となっており、秋田市を中心に都市部の人ほど白神山地との接触の機会を望んでいることが伺えます。

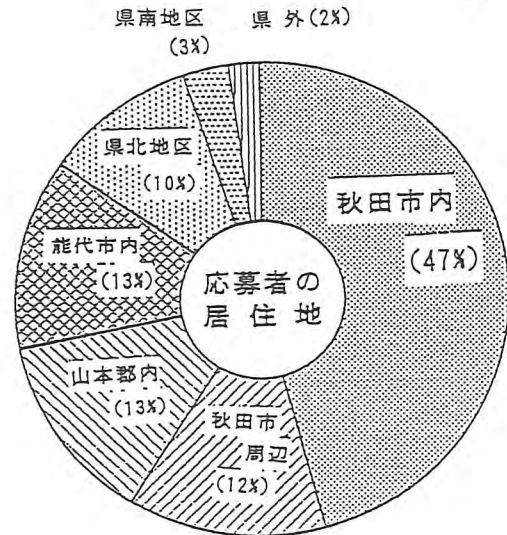
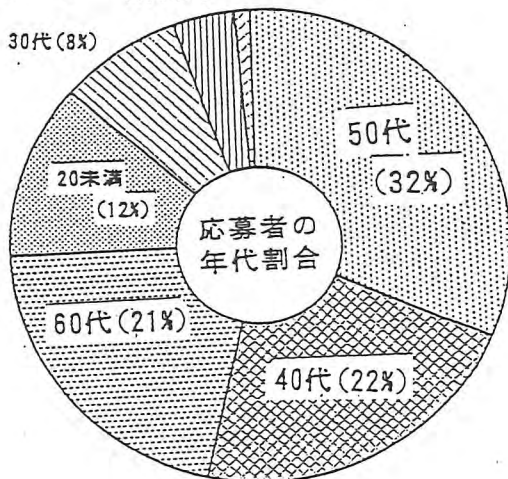


図-2 70代(4%) 20代(1%)



応募者を年代別（図-2）に見ると50代が32%と一番多く、40～60代が75%を占め、中高年の山歩きがブームであると言われることとも一致していると思います。

2 アンケート調査の分析

(1) アンケート調査の回収状況

アンケート調査は、平成7、8年度に一般市民を対象に実施した8回のイベントのうち7回を対象に調査し、アンケート対象者 286人のうち回答者は 239人で回収率は84%となっております。「表-2 参照」

表-2

アンケート回収状況

	平成7年度	平成8年度	計
イベント参加者数	141人	167人	308人
アンケート配布数	119枚	167枚	286枚
アンケート回収数	106枚	133枚	239枚
アンケート回収率	89%	80%	84%

(2) 参加者の年代別・男女別割合

参加者を年代別に見た場合、抽選であったことから応募者の比率と若干の差はあるもののほぼ同じで、50代が32%と一番多く、40～60代は71%を占めております。

また、参加者を男女別に見た場合、女性が58%で、その中でも40代～50代では約7割を占めており、女性パワーの大きさを念頭に今後のイベントを考えることが必要と思います。「表-3, 図-3参照」

表-3

参加者の年代別・男女別割合

	20歳前	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計	比率
男	12	0	8	20	29	42	9	120	42
女	15	5	16	46	60	24	0	166	58
計	27	5	24	66	89	66	9	286	100
比率	9	2	8	23	32	23	3	100	

図-3

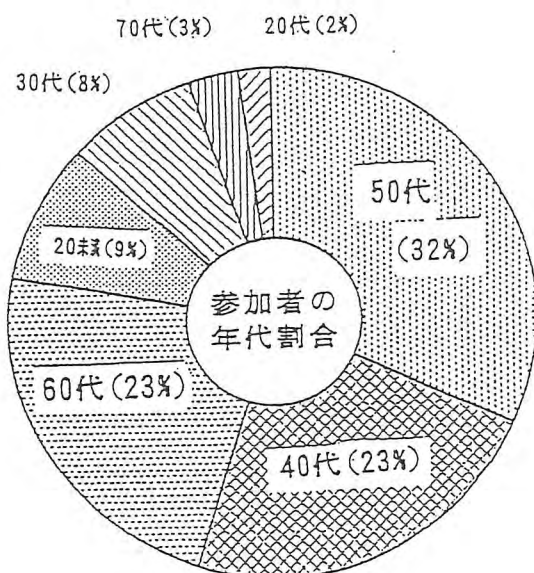
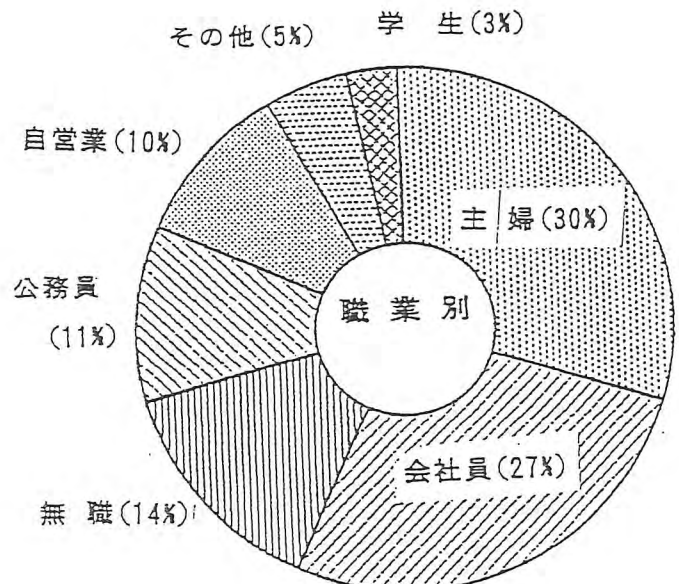


図-4



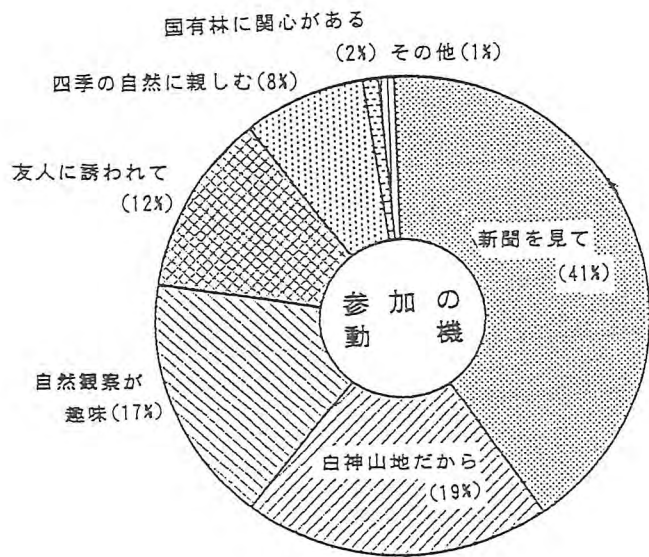
(3) 職業別

職業(図-4)を見た場合、主婦30%、会社員27%、無職14%となっており、主婦を中心にした熟年のウーマンパワーほど登山や森林浴に楽しむ機会を望んでいる姿が見えてきます。

(4) 参加の動機 (複数回答)

参加の動機 (図-5) については、「新聞を見て」が41%、「白神山地だから」が19%、「自然観察等が趣味」17%、「友人に誘われて」12%、「季の自然に親しみたい」8%と余暇利用を自然に求めている人が多いことが伺えます。

また、マスコミのインパクトとともに白神山地への関心の高さを示しているものと思います。



(5) 過去のイベントへの参加の有無

過去のイベントへの参加 (図-6) については「これまでセンター (又は営林署) の主催するイベントに参加したことがあるか」との問いには24%の人が「ある」と答えておりますが、8割近い人が初めての参加で有り、白神山地の四季にふれたいという希望がまだまだ多いことが伺えます。

図-6

これまでイベントに参加したことがありますか？

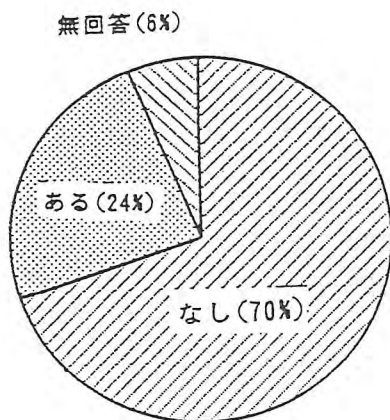
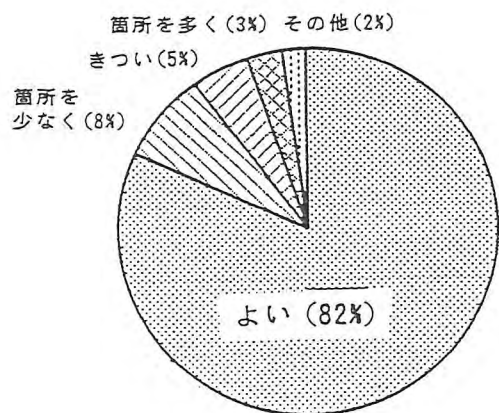


図-7

スケジュールはどうですか？



(6) スケジュール

スケジュール (図-7) については山歩きのベテランから初心者まで参加していることなど、どこに焦点を置くのか難しい面もある中で82%の人が「よい」と答え、こ

れは、私たちが安全を確保しつつ、参加者の体力等を勘案しながら時間的な配分等を変更するなど適宜対応したことが評価されたものと思います。

なお、「きつい」と「箇所をすくなく」を併せて 13%で、全て初めての参加者で、特に 8 年度第 1 回イベントが白神山地の消雪が遅く林道上を約 2 キロ程度徒歩となったためと思われます。

図 - 8

(7) 参加料

参加料（図 - 8）大人 3,500 円。子供 2,000 円については、「適当である」85%、「安い」2%となっている反面、「高い」と答えた人が 13% おりますが、記念写真を送付後、多くの方からまた参加したい、あるいは感謝の言葉を添えたお便りをいただいていることなどからして、総じて適当であると思います。

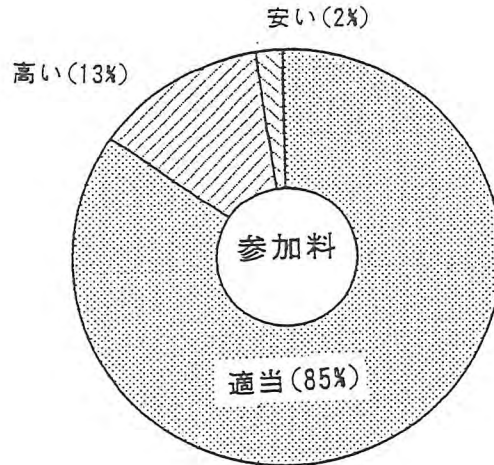
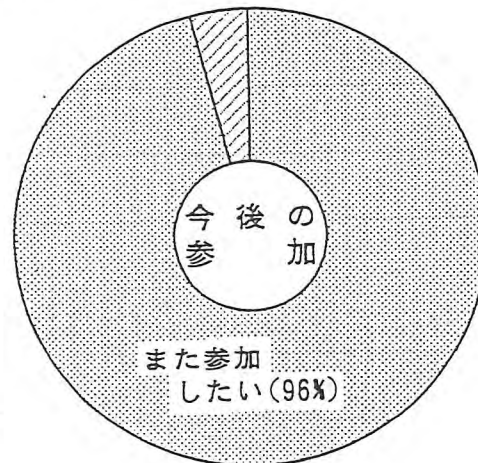


図 - 9

(8) 今後のイベントへの参加

「今後もこのようなイベントに参加したいと思いますか」（図 - 9）との問には、「また参加したい」と答えた人が 96%、「どちらともいえない」4%で、「参加したくない」がゼロとなっており、ここでも白神山地への関心の高さを示すとともに、これからの実施に向けて勇気を与えてくれたような気がします。

どちらともいえない(4%)



(9) 開催日

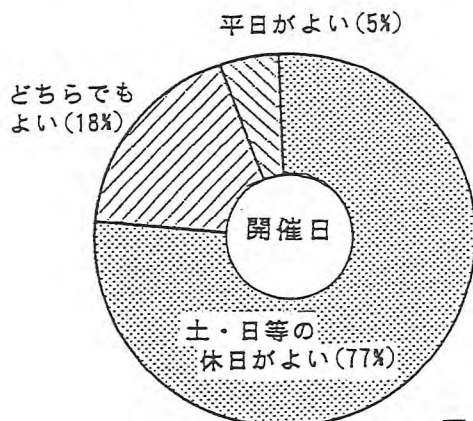


図 - 10

アンケートを実施したイベントは日曜日に 6 回、土曜日に 1 回開催したが、アンケート（図 - 10）では約 8 割の人が「土・日曜日等の休日」を希望している中で「平日がよい」と「どちらでもよい」が併せて 23% となっており、職業では主婦と無職で 44% を占めていることを考えあわせると、応募状況等を見ながら平日の開催についても更に検討していく必要があると考えております。

(10) 職員の対応

アンケートの最後に、職員の対応ぶりを伺ったところ、「大変よかった」、「よかった」が95%、「普通」4%、「わるい」と「大変よくなかった」がゼロでした。

これは事前の踏査から現地での丁寧な説明、安全への気配り、職員手作りの記念品（キーホルダー・しおり）やお味噌汁等、お客様と別れるまで「心のこもった対応」を心掛けたことが高い評価をいただいたものと思います。

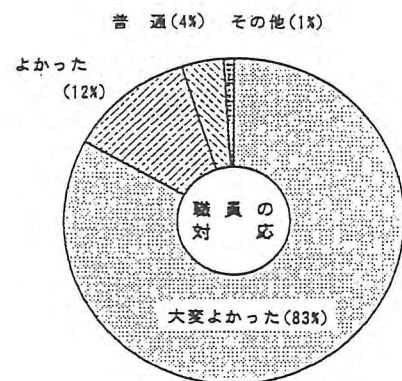
「表-4・図-11参照」

表-4

図-11

職員の対応

	平成7年度	平成8年度	計	比率
大変よかった	84	115	199	83%
よかった	16	12	28	12%
普通	4	5	9	4%
よくなかった	0	0	0	0%
大変よくなかった	0	0	0	0%
その他	2	1	3	1%
計	106	133	239	100%



(11) その他

参加者の印象に残ったところとしては、春は岳岱のブナ林、初夏は田苗代湿原の植物、登山では藤里駒ヶ岳と小岳、紅葉では釣瓶落峠や太良峠を挙げた人が多く、今後のイベントでは、これらの箇所をメインに季節に応じて魅力ある企画をして行きたいと思います。

また、林道については、砂利道の走行距離が長く疲れる。歩道については、入山者が年々増加するのに伴い荒れている箇所も見られることなど、その整備を要望する声も多くありました。藤里森林センターとしては巡視や事前踏査を行い、入山者の安全の確保に努めてまいりましたが、今後とも関係機関と連携をとりながら必要な整備を図ってまいりたいと考えております。

まとめ

今回の調査結果では秋田市を中心に白神山地の自然に直接ふれたいという傾向が見られ、更には96%の方がまた参加したい。あるいは回数を増やして欲しいとの要望も多いことなど、今後ともこの傾向が続くことが予想されますので、往復ハガキによる申し込みと抽選を続けたいと思います。

近年、中高年の登山ブーム、あるいは自然回帰と言われている中で、中高年の占める割合が高く（約7割）、家族で応募した人は約5割となっており、その中でも自然にふれたいという女性がリードしていく傾向であり、これに参加の少ない20~30代をいかに取り込むかが課題です。

藤里森林センターとしては、「白神山地世界遺産地を良好な状態で保全し、次の世代に引き継ぐ」ための保護・管理活動と各種イベント等を通じた啓発活動に取り組んでまいりましたが、多くの方々が白神山地の四季の自然にふれ、自然の大切さや森林・林業について理解を深める役割を果たすことができたものと思います。

今後もアンケート結果をイベント等の企画・運営等の活動に積極的に生かすとともに、安全かつ、楽しかったといわれるよう「心のこもった対応」を忘れず、森林インストラクターとしての研鑽を重ね、更に親しまれる藤里森林センターを目指して取り組んでまいりたいと思います。

最後に、参加者からのお礼状を紹介し、私の発表と致します。

前略

先日思っかけない登山に参加させて  
 いただきましたありがとうございます。  
 この年に初めてこのような登山はもうできないと  
 思っていましたので「私もまた登山ができる  
 んだ」という1つの自信になりました。  
 (ちょっとこわいところもありましたが)  
 自然の中に咲く、力強くむかぬ花を見る  
 植物観賞が楽しみの一つです。  
 今の私にとって  
 一緒に行こうという山の友がいたう、また参加  
 したいと思っています。  
 皆様のおかげで、安心して参加できました。  
 (ほんとうに)ありがとうございます。  
 皆様のご健康とごかつやくを祈り  
 いたします。  
 までは お礼まで

前略

この度は夏休みの親子自然観察会の  
 思い出の写真を送りました。いろいろ感謝  
 した。もう、素晴らしい自然とのふれあいに  
 参加した子供も大人と親家の子どもとの  
 文通が始まりました。梨へ企画の教  
 親子笑々に送られたくない夏休みのページ  
 と作りました。写真もながめるとは、ブナ林  
 のしずけな思ひのふりていよ。今日此項です。  
 お礼が大変遅くなりました。又参加させて  
 いただきました。ありがとうございました。

追、職員の方々のあたたかい人柄に  
 心うたれてきました。